



Rainbow letter

2022.12

No. 32

日本周産期メンタルヘルス学会・ニュースレター

学術集会 開催報告

大会長・常盤洋子（新潟県立看護大学看護学部教授）

第18回日本周産期メンタルヘルス学会学術集会は、「昔にまなび、未来につなぐ 母性のちから～今、日本の母を支える」をメインテーマとし、2022年10月22日(土)23日(日)にWeb開催いたしました。すべてのプログラムを11月1日から1か月間にわたってオンデマンド配信いたしました。オンデマンド配信終了時点で1057名、市民公開シンポジウムには410名の参加登録がありました。また、一般演題では47演題の発表がありました。関連学会の単位取得についても多くの方に活用していただきました。

本学術集会は、国立民族学博物館グローバル現象研究部 鈴木七美教授の招聘講演で「母性のちから」を紐解いていただき、すべてのプログラムを通して、現代の母性をどう支えるかについて考える学会となりました。教育セミナーでは、「不安症」、「パーソナリティ症」、「精神科医との連携の仕方」、「看護師が行う精神状態のアセスメント」について解説していただきました。学術webセミナーと共催セミナーもお願いすることができました。また、「知って！使って！ママがこころを元気にするコツ」をテーマに開催した市民公開シンポジウムでは、参加者から「心温まる内容でした」という評価をいただきました。

第2回岡野賞では、最優秀演題賞として福島県立医科大学看護学部の森 美由紀さんが選ばれました。受賞した演題は、周産期メンタルヘルス事業への貢献が大いに期待される内容だと思います。

最後に、本学術集会はCOVID-19の感染拡大の影響等で苦慮したこともありましたが、多くの皆様に支えられ成功裏に終えることができました。演題を応募してくださった皆様、査読委員の先生方、倫理委員会の先生方、座長、演者を引き受けてくださった先生方、岡野賞審査委員の先生方、学術集会のプログラムの作成及び運営に携わった企画・運営委員会の先生方、学術集会実行委員の先生方、日本周産期メンタルヘルス学会の理事の先生方、学術集会を様々な立場から支えて下さったすべての皆様に心より感謝申し上げます。

東京医科歯科大学の竹内崇先生を大会長とする2023年の第19回大会は会場開催となり、多くの皆様と交流できることを願っております。



次回・第19回日本周産期メンタルヘルス学会学術集会

テーマ 多職種で支える周産期リエゾンのバトン

2023年10月28・29日 東京都千代田区 一橋講堂 / 大会長 竹内崇（東京医科歯科大学病院）

学会新体制発足

新理事長に佐藤昌司先生が就任

鈴木利人理事長の退任により、理事会において佐藤昌司理事が新理事長に選任されました。佐藤先生は産婦人科医で現在、大分県立病院の病院長をお務めです。本学会においては2017年に大分にて学術集会を主催され、理事としても重責を担ってこられました。また、鈴木利人理事長、田口寿子理事、吉内一浩理事の退任に伴い、精神科系の理事の後任として、菊地紗耶（東北大学病院精神科）、清野仁美（兵庫医科大学精神科神経科学講座）、根本清貴（筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学）の3名、西園マーハ文監事、井村真澄監事の退任に伴い、新監事として、田口寿子（神奈川県立精神医療センター）、門脇文子（鈴鹿医療科学大学看護学部看護学科）の2名、評議員には、大江美佐里（久留米大学医学部神経精神医学講座）、田中幹二（弘前大学医学部附属病院周産母子センター）、山根律子（国家公務員共済組合連合会虎の門病院薬剤部）、須田哲史（国家公務員共済組合連合会立川病院精神神経科）、増田祥子（日本赤十字社医療センターメンタルヘルス科）、重松環奈（日本赤十字社医療センター周産期外来）、越智真奈美（国立保健医療科学院医療福祉サービス研究部）、齋藤知見（総合母子保健センター愛育クリニック周産期メンタルヘルス科）、國清恭子（群馬大学大学院保健学研究科看護学講座）の9名が新たに選任されました（敬称略）。今後佐藤新理事長の指揮のもと周産期メンタルヘルスの向上に向けて取り組んでいくこととなります。

なお、新旧理事長のご挨拶は学会ホームページからお読みいただけます。（<https://pmh.jp/greeting.html>）

企画・発行：日本周産期メンタルヘルス学会 情報関連委員会

当学会では会員の皆様にとって有用な情報をニュースレターで取り上げていきます。ご意見やご要望がありましたら事務局までお知らせください。